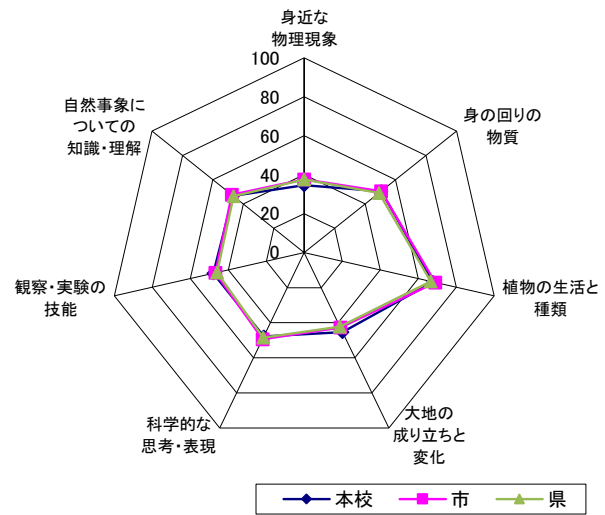


宇都宮市立陽南中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	34.6	37.6	37.5
	身の回りの物質	50.6	50.5	49.1
	植物の生活と種類	67.8	69.0	66.6
	大地の成り立ちと変化	45.3	42.7	42.2
観点	科学的な思考・表現	47.8	49.4	48.5
	観察・実験の技能	47.9	46.8	45.9
	自然現象についての知識・理解	46.8	47.6	46.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○スクリーンに映る像の向きを考える問題では市の平均を0.6ポイント、県の平均を2.6ポイント上回っている。 ●光と音の分野では水中から空気中へ光が出ていくときの光の道筋をあらわしたり、虚像や実像の作図を書くところで大きく正答率が下がっている。	・身近な物理現象については平均点を超えて学習が定着しているものも見られるが、実像や虚像を実際に作図することについては苦手意識が見られるのでさらに指導を工夫する。 ・選択問題からできる像の向きを選択する問題はよく出来ているため、作図をする問題については演習を繰り返し理解度を深めていきたい。
身の回りの物質	●力と圧力の分野ではグラフの表からおもりの重さを求める問題では県の平均を5.8ポイント、市の平均を4.4ポイント下回っている。 ●音の波形を比較し高い音を選びその理由を説明する問題では県の平均より5.8ポイント低く差が開いた。 ○メスシリンダーから適切な操作方法を選ぶ問題においては県の平均より4.8ポイント、市の平均より2.4ポイント上回っている。	・興味関心や記憶に残るような授業の進め方を心掛け、生徒にインパクトを与えられるような演示実験などに心がけていきたい。 ・密度を求める問題等は定期的に計算問題に取り組みさせて苦手意識を克服させたい。
植物の生活と種類	○顕微鏡の適切な操作では市の平均を10.7ポイント、県の平均を10.9ポイント上回っている。 ○生物のなかまの分野ではシダ植物の増え方について県の平均を4.6ポイント、市の平均を0.9ポイント上回っている。	・実験技能は1年時から顕微鏡を一人一台使う等実験技術の向上に向けて取り組みをしている。観察が好きで毎回楽しみにしている生徒も多い。今後も継続し実験や観察における生徒の技術力の向上を目指す。
大地の成り立ちと変化	○火山と地震の分野では花こう岩のような岩石のつくりの名称について県の平均を17.4ポイント、市の平均を16.0ポイント上回っている。 ●地層の重なりと過去の様子については市の平均を1.5ポイント、県の平均を1.5ポイント下回っている。	・岩石の分類においてはよく出来ている。しかしながら、示準化石等年代を特定できる岩石や、それらから地層が堆積した年代を推定することにおいては苦手意識が強い。実際に露頭等での地層の堆積を推定する作業等はできないため、実体験を補うように努めていきたい。